

# 金のケープ

Level 2

文&絵：Paulette DeJarnette

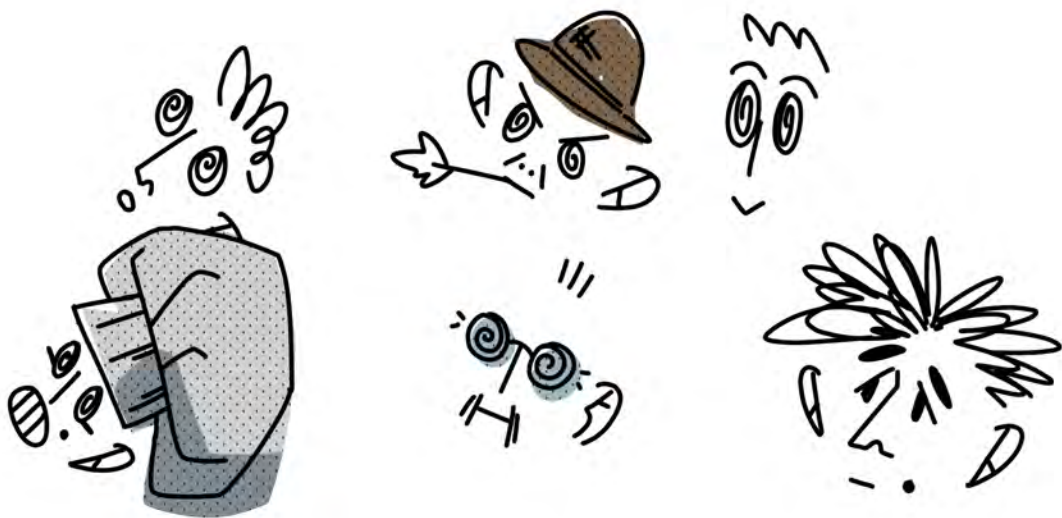
Buchanan Library Fellows 2023F



むかしむかし、小さい里むらがあつた。  
この里さとに、いろいろいろいろな人が住すんでいた。  
たとえば、お金持かねもちちや、パン屋やさんや、  
のうみんや、医者いしや、こじきなどがいた。



ある日、さん歩さんぶしている時ときに  
お金持かねもちは金のケープを見つめた。  
お金持ちは、この見たことがないケープを着てみた。  
ちよつと変わかったケープだった。  
というのは、このケープを着る人は、  
全部ぜんぶほしい物ものを取ることが出来る。  
そして、だれも、この力ちからをとめられないのだ。





ケープを着る前に、お金持ち

はまんぞくした男だった。

広い家に住んでいて、やさしいおくさんがいた。

でも、なんだかこのケープを着たら、

よくばりになって、もつともつと持ちたがった。

ひつようじやない物さえもほしがった。



男はパン屋さんのオーブンを取って、  
のうみんのおおがまを取って、  
医者くすりの薬だいじも取った。  
大事たかで高い物は何も残のこされなかった。



オーブンを持っていないので、  
パン屋さんはパンを作れない。  
おおがまを持つていないので、  
のうみんはしゅうかくが<sup>で</sup>出きない。  
そして、いうまでもなく、薬を持つていないので、  
医者<sup>びょうき</sup>は病氣の人をなおせなかつた。

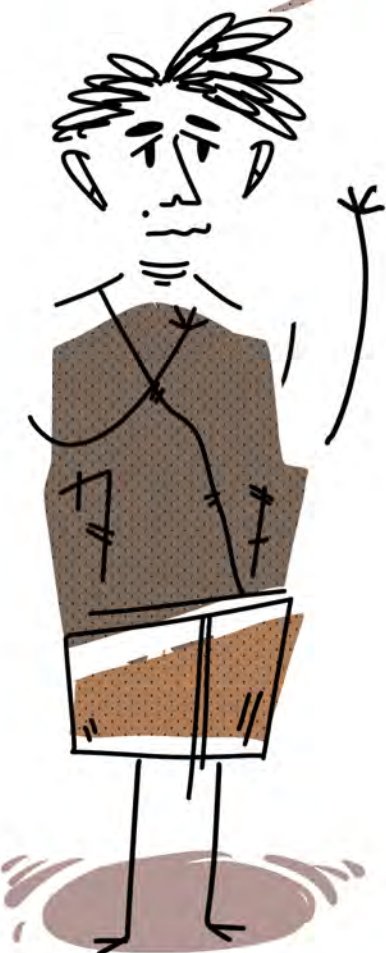
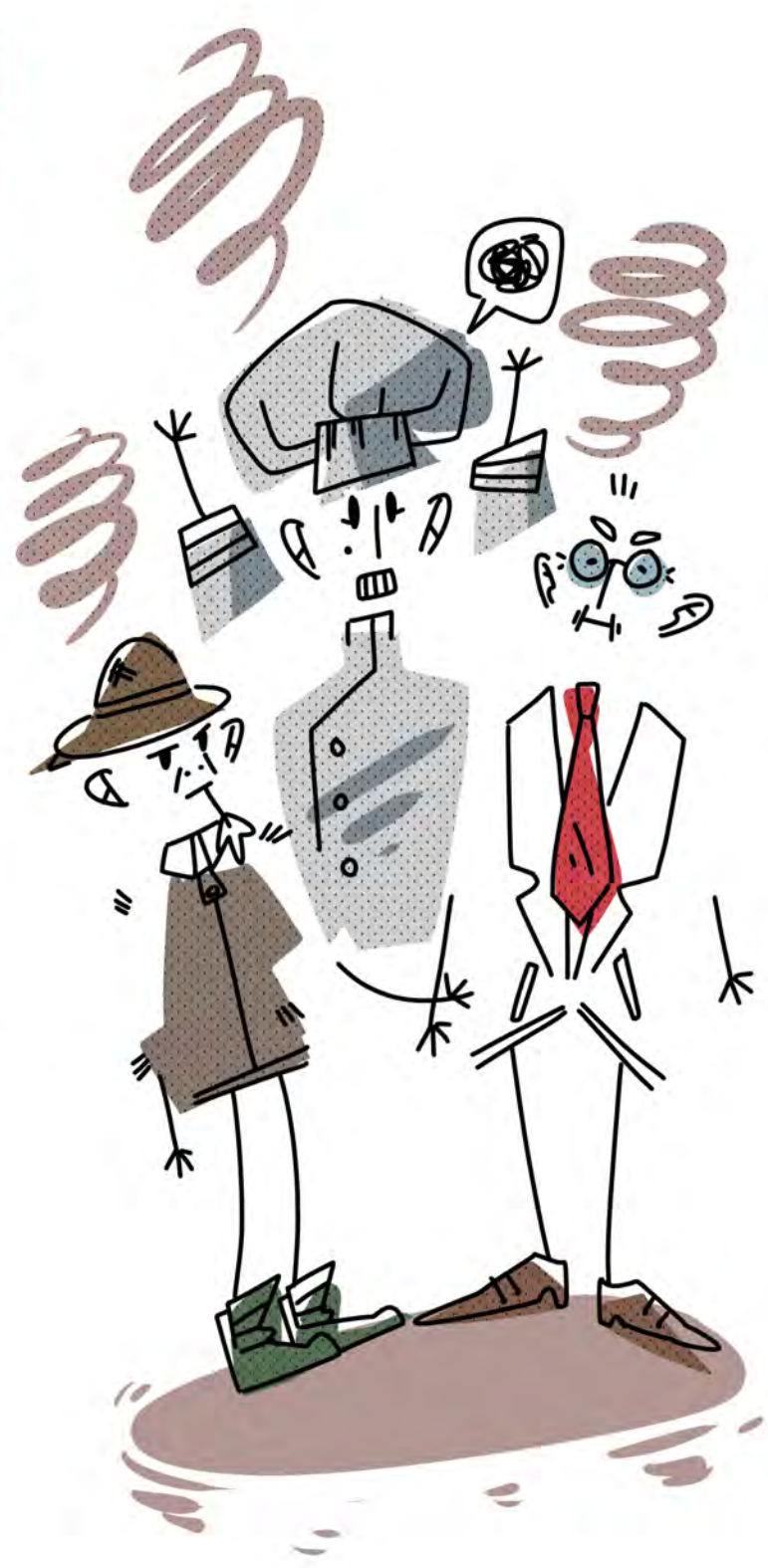


むらびと  
げんき  
村人たちは元氣じゃなくておなかがぺこぺこになったのに、  
金持ちはまだ取りつづけた。だれも、  
この人をとめられなかったら、村人たちは  
死んでしまう。





それで、村人はいつしよになつて、  
おもしろい計画けいかくを立てた。  
この里には、あと少しすこだけ、  
お金持ちが取らなかつた物があつた。  
そんなことを思いながら、わなをしかけた。



ある日、お金持ちが里の広場にいた時に、  
村人は男の近くに彼がまだ取らなかつた物  
を出しておいた。



お金持ちが物を取ろうとした時に、  
パン屋さんはケープを取ってみた。  
けれど、お金持ちはとつても頭あたまがいい。  
お金持ちはパン屋さんとのうみんと医者に  
お金かねをはらうとやくそくをした。



パン屋と、のうみんと、医者は、お金を受け取った。  
それで、村人たちは、  
もつとおなかがぺこぺこになって、  
もつと病気になった。



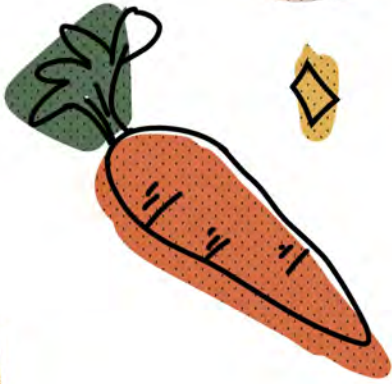
こじきは物が持っていたことがないから、  
ケープの力はこじきには強くなかった。  
でも、他の村人たちが、ひどい目にあっているから、  
こじきはおこった。里はさみしい里に  
なったからだ。



こじきはお金持ちのうちの前に村人をたくさんあつめた。  
そして、村人たちはあばれまわった。  
多おおぜいの村人たちを見た時、パン屋さんとのおみんと  
医者おは、はしってにげた。



その金を金かにした。金かで、  
パンとやさいと肉にくをかって、また新あたらしくて、  
もつとちゆうじつそうな医者つを連れてきた。  
それから、村人たちは、取られた物を  
かえしてもらった。



お金持ちはもつと小さいうちへひっこして、今いま、  
こじきは家があり、  
まちにもう住んでいない。そして、あの里は、  
またなごやかな里になった。





こじきは、大きい家に  
走<sup>はし</sup>って入<sup>はい</sup>りケープを取った。  
でも、一<sup>ひとり</sup>人でケープをこわせなかった。  
どうも金がおもすぎるから、一人で持てなかった。  
村人たちといっしょにその金を持って、  
大なべで金をとかした。

